

歯科金属アレルギー外来

▶以下のような症状でお困りの患者さんへ

歯科治療では金属を用いた治療を行っています。金属は丈夫で良い材料ですが、残念ながらこの金属によってアレルギーが引き起こされる人が増えてきました。

症状はお口の中に限らず、全身に出ることもあります。手のひらおよび足の裏にかゆみが出るのが最も多くと言われています。症状が強い場合は水ぶくれができたり、爪が変色もしくは変形することがあります。

☆口の中に現れる症状

● 接触(粘膜)皮膚炎

金属と直接触れる部分に現れる炎症。(赤み, ただれ, かゆみ, 痛みなど)



接触性(粘膜)皮膚炎

● 扁平苔癬(へんぺいたいせん)

粘膜や舌にできるレース模様の白い斑点。かぶれや出血を伴うこともあります。



扁平苔癬

☆全身に現れる症状

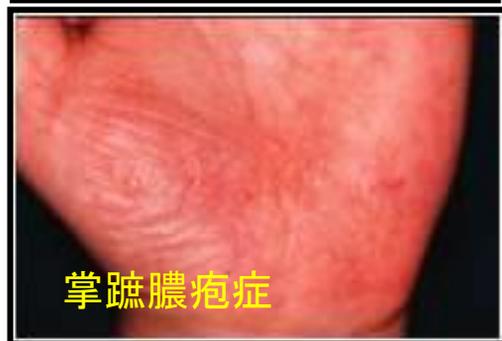
● 掌蹠膿疱症

(しょうせきのうほうしょう)

手のひら, 足の裏にできる水泡

● 蕁麻疹

短時間で赤い斑点が現れたり消えたりするもの。



掌蹠膿疱症

しか きんぞく

歯科金属アレルギー外来

▶診療内容

金属に対するアレルギー反応の原因を特定するためには、お口の中の金属の元素分析をする必要があります。しかし、これまでは、お口の中の金属を大きく削る必要がありました。しかし本専門外来では、お口の中の金属を取り除いたり大きく削ったりすること無く、元素分析を行い、皮膚科で行うパッチテストの結果と統合して、原因金属の解明を行います。

パッチテスト

パッチテストとは背中や腕に試料を貼り、48時間後に除去し、48時間後、72時間後、7日後に皮膚反応を確認する検査です。

お口の中の金属元素分析

これまではお口の中の金属を分析するには大きく削る必要がありました。本専門外来ではお口の中の金属を取り除いたり大きく削ったりすること無く、元素分析を行うことができます。



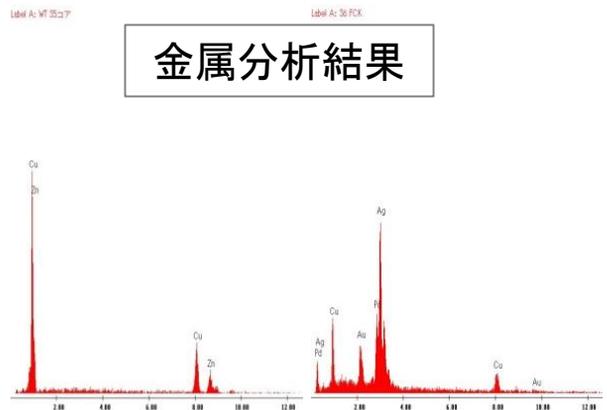
貼薬直後

除去後48時間



お口の中の金属を研磨

金属分析結果

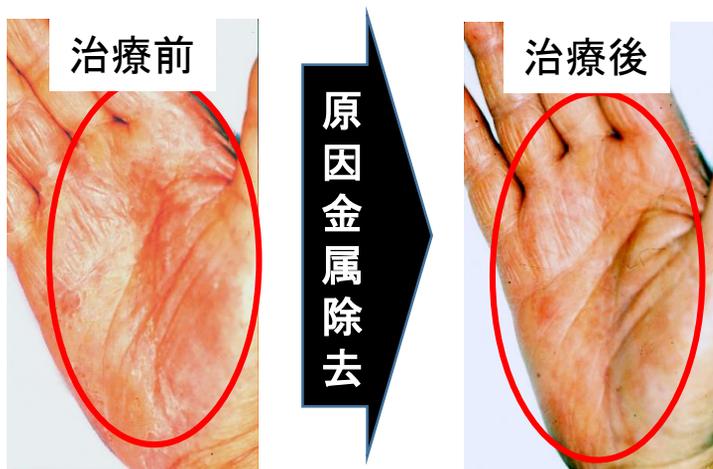


歯科金属アレルギー外来

歯科金属アレルギーに対する治療

対症療法: アレルギーの金属が特定できない場合、または原因除去が困難な場合などに行います。治療は、ステロイド軟膏、非ステロイド軟膏の外用療法(塗り薬)と抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、ステロイドの内服療法(飲み薬)があります。

原因除去療法: アレルギーの金属がほぼ特定された場合はその金属を除去し仮歯(樹脂製)を装着します。金属を使用しない最終的なつめもの・かぶせは保険内で対応できない場合がありますので、治療に先立ち充分御相談させていただく必要があります。



▶担当診療科

クラウンブリッジ補綴科

▶診療日

詳しくは『初診外来診療日割表』をご参照ください

* 紹介状持参の場合はこの限りではありません